

スライド説明資料 「ICT 機器操作～実物投影機」

| No | スライド | 説 明 文 |
|----|------|--|
| 1 | | <p>※事前に実物投影機、テレビ、プロジェクタ（スクリーン）を用意する。数セット用意できるとよい。</p> <p>※電源は、プレゼン用のみ準備。それ以外は、コードも差し込まない状態にしておく。</p> <p>今回の研修会は、機器操作について、接続の仕方や活用方法などについて行っていきます。</p> |
| 2 | | <p>研修会の進め方を説明します。</p> <p>最初に実物投影機の紹介、テレビとの接続、プロジェクタとの接続を実習していきます。不慣れな方を中心に積極的につなげてみてください。</p> <p>また、後半は実物投影機の活用例などを紹介していきます。</p> <p>是非自分一人で接続できるように頑張ってください。</p> |
| 3 | | <p>まずは、実物投影機を見ていきます。</p> <p>※機種によって機能に違いがありますので、学校で使用する実物投影機を操作してみましよう。</p> <p>近くにある実物投影機を見て下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セットしてみましよう。（向きは子ども達と向き合える角度がいいですね） ・レンズの向きが変えられます。 ・ピント合わせができます。（ズーム付きもある） |
| 4 | | <p>実物投影機だけでは何も映らないので、テレビやプロジェクタにつないで映像を映します。</p> <p>まずは電源を入れてみましよう。</p> <p>電源を差し込むと、オレンジ色のランプがつくので、これで待機状態です。</p> |
| 5 | | <p>電源ボタンを押すと青色のランプがつきます。</p> <p>実物投影機によっては、機能選択をします。</p> <p>ここでは、実物投影機の絵を選択します。</p> <p>横にビデオとの切換スイッチもあるので注意して下さい。</p> <p>※ケーブルを実際にさしてもらおう。</p> |

スライド説明資料 「ICT 機器操作～実物投影機」

| No | スライド | 説 明 文 |
|----|--|--|
| 6 | <p style="text-align: center;">実物投影機を接続してみよう</p> <p>テレビに映したいときは、黄色のケーブルを黄色の穴[VIDEO]に差す。</p> | <p>まずは、テレビに映してみます。</p> <p>テレビに映す場合は、「V I D E O」のジャックを選びます。 ケーブルは色々ありますが、映像だけでいいなら、黄色のピンジャックがあれば大丈夫です。</p> <p>黄色の穴に黄色のジャックを指してみましよう。</p> |
| 7 | <p style="text-align: center;">デジタルテレビにデジカメのケーブルをつなぐ</p> <p>テレビの電源を入れる</p> <p>テレビにケーブルをつなぐ</p> <p>テレビのリモコンで入力の入力切換をする</p> <p>映ったぞ!</p> | <p>続いて、テレビの用意をします。 皆さんでスライドの通りにやってみて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テレビの電源コードを入れ、電源を ON にする。 ②テレビに先ほどのケーブルをつなぐ。 ③デジカメの電源をオンにする。 ④テレビの入力切換をする。 (ケーブルを差し込んだ番号～入力 1、入力 2 など) <p>これで映りましたね。</p> |
| 8 | <p style="text-align: center;">デジカメの写真や動画をプロジェクタに映してみよう</p> <p>電源コードを差し込む。(しっかりさしこもう)</p> <p>電源コードを差し込んだ状態。(オレンジ色ランプ)</p> | <p>続いて、プロジェクタの使い方を見ていきましょう。 ※説明しながらどんどん操作してもらおう 電源コードをしっかりと差し込んで下さい。 電源がオレンジ色でつきます。(まだ映らない)</p> |
| 9 | <p style="text-align: center;">デジカメの写真や動画をプロジェクタに映してみよう</p> <p>電源を1回押す(緑色ランプ)</p> <p>レンズのふたを取る。または「開」にスライドする。</p> | <p>電源を1回押すと緑色のランプがつきます。 レンズのふたを取りましょう。または、レンズのシャッターを「開」にスライドする。 この状態で、青い画面が映っています。</p> |
| 10 | <p style="text-align: center;">プロジェクタとコンポジット端子</p> <p>映像用の黄色いピンをさす。</p> <p>デジカメとつなげたケーブル</p> | <p>さっきテレビにさしてあった黄色のピンを、プロジェクタの映像入力のところ(黄色)にさす。</p> <p>これで、先ほどと同じようにデジカメの画像が映ります。ただし、映す先にスクリーンが必要です。</p> |

スライド説明資料 「ICT 機器操作～実物投影機」

| No | スライド | 説 明 文 |
|----|------|---|
| 11 | | <p>スクリーンには、幾種類かあります。</p> <p>①まず、これは、ホワイトボードです。移動が簡単で、専用マーカーで書き込みや消すことができる点では優れています。しかし、教室に常設は難しいです。</p> <p>②これは、マグネット式の電子黒板です。 先ほどと同じように、マーカーで書き込みができることに加えて、電子ペンで書き込みができるようになっていきます。また、軽いので、丸めて持ち運びが楽にできます。パソコンを使うこと、位置合わせを行うことなど、少し手間はかかります。</p> |
| 12 | | <p>教室の黒板もスクリーンとして使用できます。 黒板にそのままチョークで書き込み、スクリーンの用意もいらないので一番楽です。ただ、やや暗く見づらくなるので、映像などには不向きです。 OHP用に使われていたスクリーンなどがあると使えますね。実際の授業の中では、できれば黒板と目線が変わらない場所がベストです。 模造紙も手軽でいいです。ただ磁石で貼り付けると、時々ずれてしまうことなどあります。 白くて、表面に凹凸がなければ何でも大丈夫なので、布などがぴんと張れるようにしてあればOKです。 ホームセンターにあるメーター売りしているような布なら安く、自分の好きな大きさに作れます。 ちなみにこのスクリーンは棒 2 本も入れて、700 円ぐらいで作りました。</p> |
| 13 | | <p>実物投影機の活用方法ですが、とにかく、手軽に何でも大きく映せるのでいろいろな場面が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を大きく映す ・手元の操作を大きく映す ・児童の作品を大きく映す ・学習用具や学習の様子を大きく映す 等です。 |
| 14 | | <p>全員が持っているようなものでも大きく映すと…</p> <p>教科書の挿絵をみんなで見て気付いたことを発表する</p> <p>教科書の本文を映して、線を引いたりコメントを入れたりする。または、全員前を向いて音読する。</p> <p>グラフや表、資料から気付いたこと、自分の考えを発表する。 など</p> |
| 15 | | <p>手元の操作を大きく映すことができます。</p> <p>手本となるような動きを見ながら、自分で進めることができるので個別指導せずにできます。 例えば、ミシンの使い方や包丁の使い方。鍵盤ハーモニカなどの指使い。釘の打ち方やのこぎりの使い方など、危険なものも、全体に指導が浸透しやすくなります。 また、習字の手本やハシの上手な持ち方など、様々な場面で活躍します。</p> |

スライド説明資料 「ICT 機器操作～実物投影機」

| No | スライド | 説 明 文 |
|----|---|---|
| 16 | <p>実物投影機のICT活用場面 ☆ 児童の作品やノートを大きく映す</p> <p>制作途中・完成品 ノートやプリント</p> | <p>児童の作品やノートを大きく映す活用法もあります。</p> <p>制作途中や完成したものを、みんなに見せ、良いところや改善すると良くなる所など、みんなで話し合ったりできます。また、みんなに取り上げられることで、意欲的に取り組むようになります。</p> <p>しっかり書いているノートを取りあげ、ノートの書き方の参考にしたりできます。</p> |
| 17 | <p>実物投影機のICT活用場面 ☆ 学習用具や学習の様子を大きく映す</p> <p>学習用具の使い方 学習の様子</p> | <p>学習用具や学習の様子を大きく映します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習用具の使い方、分度器、コンパス、はさみ、カッターなど、危険なものや説明してもなかなかうまく使えないようなものに使うと効果的です。 ・ 学習の様子で、席に座っている、挙手している、礼をしている、音読している、など姿勢を自分で振り返ることができます。 |
| 18 | <p>実物投影機のICT活用場面 ☆ その他の工夫(書き込み)</p> <p>教科書の本文や子どものノート、コピーしたものを大きく映す。 教科書やノートの上にラップやOHPシートなど透明なものを置く。 シートの上から書き込む。ラップならそのまま捨てられる。OHPシートなら、消して再利用。</p> | <p>その他の工夫として、書き込みもできます。</p> <p>電子黒板などあればいいのですが、無い場合には、教科書やプリントの上に、ラップやOHPシートなど透明なものを置きます。そこに、書き込み、ラップならそのまま捨てられるし、OHPシートなら、ホワイトボード用ペンでの書き込みなら、消して、再利用できます。</p> |
| 19 | <p>実物投影機のICT活用場面 ☆ その他の工夫(一部を隠す)</p> <p>教科書で最初に考えさせたい部分を隠して提示する。隠すものは、白い厚紙で、A4程度の大きさがあればいつでも使える。 分からない児童には、ヒントを与えるようにする。見せ方を、教材に合わせて工夫する。 さらに、考え方のヒントを見せる。直接、補助線を書き加えたり、児童に書き込ませてもらう。</p> | <p>その他の工夫として、一部を隠すといった使い方もできます。</p> <p>教科書全てを見せると、考え方まで載っていたりするので、その部分を隠しておきます。</p> <p>そのときに、A4番程度の白地の厚紙を用意しておくといいでしょう。</p> <p>少しずつ見せたり、間を隠したり工夫して、子ども達に考えさせます。個々では算数の例を見せます。</p> |
| 20 | <p>実物投影機を活用してみよう</p> <p>次回にはICTを活用した模擬授業での研修です。</p> | <p>様々な用途に実物投影機は使えますので、是非活用してみましょう。</p> <p>次回は、ICTを活用した模擬授業の研修を行います。是非参加して下さい。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> |